

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地		
中和医療専門学校	昭和33年6月14日	楠本 高紀	〒492-8251 愛知県稲沢市東緑町一丁目1番81 (電話) 0587-23-3235		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人 葛谷学園	昭和55年2月1日	鈴木 武志	〒492-8251 愛知県稲沢市東緑町一丁目1番81 (電話) 0587-23-3235		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士	
医療	医療専門課程	柔道整復科(Ⅱ部)	平成15年文部科学省告示 第14号	-	
学科の目的	柔道整復を業として行うために必要な免許を取得し、業界で活躍できる柔道整復師の養成を行う。				
認定年月日	平成 年 月 日				
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験
3	2460時間	1620時間	150時間	690時間	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90人	40人	0人	6人	19人	25人
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験等を実施し、評価する。合格点60点以上。	
長期休み	■学年始:4月1日～4月4日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月6日 ■学年末:3月15日～3月31日	卒業・進級条件		学則の教育課程表に定める全科目の単位を取得すること。	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任制をとっており、担任により指導するが、状況に応じ他の教員や学科長等と連携し指導にあたる。	課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 生徒自治会、スポーツイベント等における治療ボランティア 学園祭実行委員会、自主勉強会、医療施設見学会等 ■サークル活動: 有	
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 接骨院、病医院、介護福祉施設、スポーツ関連施設、プロスポーツ団体等 ■就職指導内容 企業説明会の実施、業界説明会の実施、就職希望調査、就職担当教員・職員による個別指導等 ■卒業者数: 20 人 ■就職希望者数: 18 人 ■就職者数: 16 人 ■就職率: 88.9 % ■卒業者に占める就職者の割合: 80 % ■その他 ・進学者数: 2人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) 資格・検定名 種 受験者数 合格者数 柔道整復師 ② 20人 16人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等	
中途退学の現状	■中途退学者 2 名 ■中退率 4.4 % 平成28年4月1日時点において、在学者45名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者43名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 成績不振、経済的理由、進路選択のミスマッチ等 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 担任や教科担当教員等により指導を行っている。また、入学にあたっての進路選択のミスマッチについては、はり、きゅう等の業務について学校説明会等で充分に説明し、入学選択にあたっては面接により意欲の高い者を入学させるようしている。				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 1年生8名、2年生1名				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)				
当該学科のホームページURL	http://www.chuwa.ac.jp				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための自集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は業界からの強い要望により昭和33年にあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の養成校として開校して以来、業界とのつながりを強くもち、実務に携わり且つ法令により教員資格を持つ臨床経験豊富な医療人を非常勤講師として招聘し、実践的な教育を永年行ってきた。

この伝統を基に、柔道整復科においても、業界に強く関わりを持つ外部委員を招いて教育課程編成委員会を構成し、専門家の立場から様々な意見を聴取し、教育に反映させることで、さらに実践的な柔道整復師の養成教育を行えるよう、授業内容や方法の改善及び工夫に向けた様々な取り組みを行う事を基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会を設置し、各科の教育内容について意見交換を行い、教育の質の向上に努める。教育課程編成委員会で検討された内容は、教員会議で報告され、実技指導検討委員会等の委員会で、実際の教育へ如何に反映させるか検討した後、教員会議の審議を経て実践される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
藤川 和秀	愛知県柔道整復師会(副会長)	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	①
藤村 大輔	柔整堂接骨院(院長)	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	③
中村 宜之	中村接骨院(院長)	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	③
楠本 高紀	中和医療専門学校(校長)	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	
古橋 一人	中和医療専門学校(副校長)	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	
葛谷 壽彦	中和医療専門学校(学科長)	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	
戸崎 素成	中和医療専門学校(臨床実習施設長)	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	
木全 健太郎	中和医療専門学校(夜間部主任)	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	
太田 康晴	中和医療専門学校(校務主任)	平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

委員会は原則としては年2回(3月・9月)開催する。また、委員長が必要と認めたときは臨時会を開催する。

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年3月27日 13:00～15:00

第2回 平成28年9月18日 13:00～14:45

平成29年度

第1回 平成29年3月19日 13:00～15:35

第2回 平成29年9月 3日 13:00～15:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

実践的な技能と倫理観及び療養費等の扱いをカリキュラムに反映させることの必要性が明確になったため、学内におけるカリキュラム改正と企業等との協定を締結すべく着手する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は業界からの強い要望により昭和33年に開校して以来、業界とのつながりを強くもち、実務に携わり且つ法令により教員資格を持つ臨床経験豊富な医療人を非常勤講師として招聘し、実践的な教育を永年行ってきた。

この伝統に基づき臨床経験豊かな非常勤講師と連携し、臨床の現場で求められる知識・技術の習得や臨床家としての資質を身につけさせるよう指導をする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実際の臨床現場で活躍している先生に実技指導をしていただき、臨床の現場で求められる知識・技術の習得や臨床家としての資質を身につけさせるようにしている。学習成果の評価についても、その担当して頂く先生に臨床家としての立場から評価をして頂いている。また、専任教員との実技指導検討会議や学内実技研修会を行い、体系的に企業との連携を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
総合実技ⅠA	柔道整復師が臨床で遭遇する上腕骨遠位部、肘関節、前腕部疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 上腕骨遠位端骨折、肘関節軟部組織損傷、前腕骨骨折	那加接骨院
総合実技ⅠB	柔道整復師が臨床で遭遇する手部疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 手根骨骨折、手関節部軟部組織損傷、手関節脱臼、中手骨骨折、指骨骨折	那加接骨院
柔道整復実技ⅣA	柔道整復師が臨床で遭遇する胸部、脊柱、股関節疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 胸部損傷、脊柱損傷、股関節損傷	おくだ接骨院
柔道整復実技ⅣB	柔道整復師が臨床で遭遇する骨盤、大腿部疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 骨盤骨折、大腿骨骨折、大腿部の軟部組織損傷	おくだ接骨院
総合実技ⅡA	柔道整復師が臨床で遭遇する肩関節疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 肩の解剖と機能、肩関節の診察・検査法、肩関節周辺の外傷、肩関節変性疾患、末梢神経障害、臨床実施問題	岐南接骨院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

柔道整復師に関係する専門医療分野の実務に関する知識・技術・技能などについて、業会団体や企業、養成施設関連協会や関連学会・学術機関等において、学内の業務だけでは得ることの出来ない知識・技能、専攻分野に関する最新の知識・技能などを得ることや、指導力の向上のため教職員に研修をさせる。
またこれらの研修は、本校の研修規程に基づき、年度始めに研修計画を立て実施する。その他、必要に応じて専門科目会議等で企画した研修を加えることもできる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年8月23日(火)、24日(水) (公社)全国柔道整復学校協会 教員研修会(専任教員全員)
(「柔道整復師と整形外科医療スタッフとの共同体制について」南オレゴン大学チームドクターDr.Hal Townsend)他
平成28年11月19日(土)、20日(日) 日本柔道整復接骨医学会学術集会(専任教員一部)
(「災害 柔道整復師どう動くか どう備えるか」岩手県柔道整復師会 植田秀貴他)他
平成29年2月3日(金)、4日(土) 日本肘関節学会学術集会(専任教員一部)
(「肘関節不安定症のサイエンス」昭和大学医学部整形外科学講座 稲垣克記)他

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年7月29日(金)、30日(土) 日本医学教育学会大会(専任教員一部)
(「原点に戻る～医学教育に求められること～」愛媛大学医学部総合医学教育センター小林直人)他
平成28年8月23日(火)、24日(水) (公社)全国柔道整復学校協会 教員研修会(専任教員全員)
(「学生のやる気をひきだす行動心理学」武庫川女子大学 教授 北口勝也)他

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成29年8月19日(土)、20日(日) (公社)全国柔道整復学校協会 教員研修会(専任教員全員)
(「神経・筋・骨格系疾患の治療とケア」牧田総合病院脊椎脊髄センター部長 朝本俊司 他)他
平成29年11月3日(金)、4日(土) 日本柔道整復接骨医学会学術集会(専任教員一部)
(「新しい運動生理学—スポーツケアを中心に—」札幌医科大学 當瀬 規嗣)他

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成29年7月27日(木) 中和医療専門学校校内研修会(専任教員及び職員全員)
(ハラスメント研修(株)ハーモニークリエーション代表 白石恵美子)14:40～17:00
何気ない言葉や、よかれと思って言った言葉が、生徒を傷つけたり嫌な思いをさせたりすることもある。この研修を通して授業等において生徒と接する際のコミュニケーションのあり方について学んだ。
平成29年8月19日(土)、20日(日) (公社)全国柔道整復学校協会 教員研修会(専任教員全員)
「発達障害のある学生への指導～応用行動分析の視点から～」8月19日13:30～15:00
学生が経験する「困り感」と学生を指導する教員の「困り感」を応用行動分析を用い、事例をもとに学んだ。障害があるかないかではなく、指導者として学生の「困り感」にどう向き合うかを考える研修であった。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学内において自己点検評価報告書を作成し、これを基に学校関係者による外部評価を行う。中和医療専門学校と関係の深い業界団体・企業・卒業生・保護者等の意見を聴き、学校教育・運営の向上を図るようとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

コミュニケーションを基礎から学ばせる必要があるとの意見が出され、それに対して挨拶の徹底や、ラウンジ等で積極的に生徒に話しかけを行うことを実施し、また基礎分野の心理学の授業でコミュニケーションを学ばせることとした。外部の学校関係者の意見には、学内には気づかないようなこともあり、大いに参考となった。就職先の企業の調査、コミュニケーション能力を高める方策、地域貢献活動等、今後更に検討を重ねていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
小川 稔	小川鍼灸院(院長)	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	企業等委員
村田 守宏	むらた鍼灸院(院長)	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	卒業生
藤川 和秀	愛知県柔道整復師会(副会長)	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	企業等委員
伊藤 秀雄	クローバー治療院グループ(代表)	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	卒業生
酒井 定子	後援会(役員)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	保護者
石川 奈美	後援会(役員)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成29年8月25日

URL:<http://www.chuwa.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

中和医療専門学校関係者の学校への理解を深め、連携・協力を推進するため、学校の教育目標・理念、各科の教育課程、就職支援やキャリア教育、自己点検・評価など、学校運営の状況等の情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科の教育内容
(3) 教職員	組織及び教職員の状況
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務状況
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.chuwa.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
○			心理学Ⅰ	臨床心理学の視点から人が育ち、生きる上で、重要な発達課題及び問題について学習する。 治療者の倫理、自己分析、セルフケア、患者の心理	1前	30	2	○			○			○			
○			心理学Ⅱ	臨床心理学の基礎的な知識を学び、人がこころを病むことについて、治療者としてどのように理解し、沿っていくかについて学習する。 スポーツ心理学、精神障害	1後	30	2	○			○				○		
○			保健概論Ⅰ	人の体のしくみについておおまかな構造と代表的な臓器の機能について学習する。 循環器、呼吸器、消化器、代謝、体温調節、生殖器、内分泌	2前	30	2	○			○			○			
○			保健概論Ⅱ	人の体のしくみについておおまかな構造と代表的な臓器の機能について学習する。 骨、筋、神経、感覚、血液、体液	2後	30	2	○			○			○			
○			統計学	将来、社会に出ると様々なデータを目にする機会が多々ある。そんな時、それを鵜呑みにしたり、漠然と見たりするのではなく、その数字に表れているもの、また表すことのできないものに気づく洞察力を養う。 母集団と標本、データの特性値、正規分布、検定	1後	30	2	○			○					○	
○			英語Ⅰ	将来社会に出た時に、医療に関係する簡単に基礎的な医療用語や略語を理解できるように習得させる。 医学用語の構造、複合語と合成語、英文読解、身体各部位の英単語（骨格系）、体の方向・位置・運動を表す形容詞・名詞、医療英会話	1前	30	2	○			○					○	
○			英語Ⅱ	将来社会に出た時に、医療に関係する簡単に基礎的な医療用語や略語を理解できるように習得させる。 カルテ等に出てくる英単語、身体各部の英単語（筋肉、神経）、医療英会話	1後	30	2	○			○					○	

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			解剖学Ⅰ	人体諸器官の形態と構造について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 骨格系（総論、脊柱、胸郭、上肢、下肢、頭蓋）	1前	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	人体諸器官の形態と構造について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 筋系（総論、頭部、胸部、腹部、背部、上肢、下肢）	1後	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅲ	人体諸器官の形態と構造について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 循環器、消化器	1前	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅳ	人体諸器官の形態と構造について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器、感覚器	1後	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅴ	人体諸器官の形態と構造について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 解剖学総論、神経系総論、中枢神経系総論、脊髄、脳幹、間脳、小脳、大脳皮質、髄膜	1前	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅵ	人体諸器官の形態と構造について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 中枢神経系の脈管、伝導路、脳神経、脊髄神経	1後	30	1	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	人体の正常な機能について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 生理学基礎、神経の基本的機能、筋肉の機能	1前	30	1	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	人体の正常な機能について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 神経系の成り立ち、内臓調節機能、姿勢と運動の調節、高次機能、感覚の生理学	1後	30	1	○			○			○	

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			生理学Ⅲ	人体の正常な機能について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 血液、循環器系、呼吸器系	1前	30	1	○			○	○			
○			生理学Ⅳ	人体の正常な機能について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 消化器系、肝臓、胆道系、代謝、体温、泌尿器系	1後	30	1	○			○	○			
○			生理学Ⅴ	人体の正常な機能について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 内分泌系、生殖器系、骨の構造、体液	1後	30	1	○			○	○			
○			運動学Ⅰ	運動学の基礎的事項を理解させ、治療を適切に行う態度と能力を育てる。 運動の表し方、身体運動と力学、運動器の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢と体幹の運動	2前	30	1	○			○		○		
○			運動学Ⅱ	運動学の基礎的事項を理解させ、治療を適切に行う態度と能力を育てる。 四肢と体幹の運動、姿勢、歩行、運動発達、運動学習	2後	30	1	○			○		○		
○			病理学概論Ⅰ	疾病に関する一般的事項および各病変の概要について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 病理学とは、疾病の一般、細胞障害、循環障害、進行性病変と細胞・組織の適応、炎症	2前	30	1	○			○		○		
○			病理学概論Ⅱ	疾病に関する一般的事項および各病変の概要について理解させ、これを治療に応用する能力と態度を育てる。 免疫異常、アレルギー、腫瘍、先天性異常、病因	2後	30	1	○			○		○		
○			一般臨床医学Ⅰ	現代医学の診断および治療に関する基礎的な知識を習得させ、医療関係者としての能力と態度を育てる。 医療面接、生命徴候、主な臨床症状等	2前	30	1	○			○		○		

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			一般臨床医学Ⅱ	現代医学の診断および治療に関する知識を習得させ、医療関係者としての能力と態度を育てる。 呼吸器系疾患、循環器疾患、消化器系疾患等	2後	30	1	○			○	○			
○			一般臨床医学Ⅲ	現代医学の診断および治療に関する知識を習得させ、医療関係者としての能力と態度を育てる。 消化器系疾患、肝胆膵疾患、代謝栄養疾患、内分泌疾患、血液・造血器疾患等	3前	30	1	○			○	○			
○			一般臨床医学Ⅳ	現代医学の診断および治療に関する知識を習得させ、医療関係者としての能力と態度を育てる。 腎・尿路疾患、神経疾患、リウマチ性疾患、感染症等	3後	30	1	○			○	○			
○			外科学概論Ⅰ	外科学に関する基礎的な知識を習得させ、医療関係者としての能力と態度を育てる。 損傷、炎症と外科感染症、腫瘍、ショック、輸血・輸液、消毒、手術、麻酔、移植と免疫等	3前	30	1	○			○		○		
○			外科学概論Ⅱ	主な外科的疾患に関する基礎的な知識を習得させ、医療関係者としての能力と態度を育てる。 脳神経外科疾患、甲状腺疾患、乳腺疾患、胸部外科、心臓外科、消化器外科等	3後	30	1	○			○		○		
○			整形外科学Ⅰ	整形外科学に関する基礎的な知識を習得させ、医療関係者としての能力と態度を育てる。 骨の基礎知識、関節の基礎知識、骨・関節疾患等	2前	30	1	○			○		○		
○			整形外科学Ⅱ	整形外科学に関する基礎的な知識を習得させ、医療関係者としての能力と態度を育てる。 筋肉の基礎疾患、筋肉疾患、絞扼性神経疾患、脊椎・脊髄疾患、ロコモティブシンドローム等	2後	30	1	○			○		○		

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			リハビリテーション概論Ⅰ	リハビリテーション医学の一般的な基礎事項を理解させ、治療を行う態度と能力を育てる。 リハビリテーションの概念と歴史、リハビリテーション医学、リハビリテーション医学の基礎医学、リハビリテーション医学の評価と診断、リハビリテーションの治療	2前	30	1	○			○			○	
○			リハビリテーション概論Ⅱ	リハビリテーション医学の一般的な基礎事項を理解させ、治療を行う態度と能力を育てる。 リハビリテーションの治療、リハビリテーション医学と関連職種、リハビリテーション医学の実際、リハビリテーションと福祉	2後	30	1	○			○			○	
○			衛生学・公衆衛生学Ⅰ	健康の保持に必要な基礎的な知識を習得させるとともに、予防医学の重要性を理解させ、治療者として必要な能力と態度を育てる。 衛生学・公衆衛生学の歴史、健康の概念、健康指導、疾病予防・健康管理、感染症、消毒法、環境保健、生活環境、食品衛生、母子保健	3前	30	1	○			○			○	
○			衛生学・公衆衛生学Ⅱ	健康の保持に必要な基礎的な知識を習得させるとともに、予防医学の重要性を理解させ、治療者として必要な能力と態度を育てる。 学校保健、産業保健、成人保健、精神保健、地域保健、衛生行政、保健医療制度、疫学、医の倫理と安全確保	3後	30	1	○			○			○	
○			医療概論	医学の歴史、医療制度の基礎的な知識を習得させるとともに、「柔道整復」に従事する者の倫理について理解させ、治療者として必要な能力と態度を育てる。 柔道整復の歴史、柔道整復師法の成立、現代の医学と医療	2前	30	1	○			○			○	
○			関係法規	保健医療福祉制度の中における柔道整復師の位置付けを学ぶ。 序論、柔道整復師法とその関連内容、関係法規	3前	30	1	○			○			○	
○			柔道ⅠA	柔道整復師として必要な柔道の素養を身につける。 受身、袈裟固、体落、乱取	1前	30	1			○	○			○	

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			柔道ⅠB	柔道整復師として必要な柔道の素養を身につける。 大外刈、乱取	1後	30	1			○	○			○	
○			柔道ⅡA	柔道整復師として必要な柔道の素養を身につける。 寝技、立ち技、柔道の歴史	2前	30	1			○	○			○	
○			柔道ⅡB	柔道整復師として必要な柔道の素養を身につける。 打ち込み、移動打ち込み、押さえ込みへの連携、団体戦	2後	30	1			○	○			○	
○			柔道Ⅲ	柔道整復師として必要な柔道の素養を身につける。 浮落、背負投、肩車、浮腰、払腰、釣込腰、送足払、支釣込足、内股、足払	3前	45	1			○	○			○	
○			柔道整復学総論ⅠA	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に骨折総論の知識を修得する。実際に臨床現場で骨折の施術にあたるための基礎知識を得る。 骨の説明、運動器の概説、損傷時に加わる力、骨の形態と機能、骨損傷に加わる力、骨損傷の分類	1前	30	1	○			○			○	
○			柔道整復学総論ⅠB	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に骨折総論の知識を修得する。実際に臨床現場で骨折の施術にあたるための基礎知識を得る。 骨損傷の症状、骨損傷の合併症、小児骨損傷、高齢者骨損傷、骨折の治癒過程、骨損傷の治癒に影響を与える因子、骨折の整復法、評価	1後	30	1	○			○			○	
○			柔道整復学総論ⅡA	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に軟部組織損傷総論の知識を修得する。実際に臨床現場で軟部組織損傷の施術にあたるための基礎知識を得る。 関節の構造と機能、関節構成組織、関節損傷、靭帯損傷、関節軟骨損傷、その他の関節構成組織損傷、脱臼、筋損傷	2前	30	1	○			○			○	

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			柔道整復学総論ⅡB	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に軟部組織損傷総論の知識を修得する。実際に臨床現場で軟部組織損傷の施術にあたるための基礎知識を得る。筋損傷、腱の形態と機能、腱損傷の分類、神経の形態と機能、神経損傷の概説、血管系の形態と機能、血管損傷の症状、皮膚の形態と機能、評価、治療法	2 後	30	1	○			○		○		
○			柔道整復学総論ⅢA	柔道整復学を学ぶ上で必要となる筋・骨格および末梢神経系の機能解剖について理解する。肩関節・上腕・前腕・手の構造、超音波エコーによる上肢の観察	3 前	30	1	○			○		○		
○			柔道整復学総論ⅢB	柔道整復学を学ぶ上で必要となる筋・骨格および末梢神経系の機能解剖について理解する。股関節・膝関節・下腿・足関節の構造と機能、超音波エコーによる下肢の観察	3 後	30	1	○			○		○		
○			柔道整復学演習ⅠA	解剖学の国家試験対策授業。内容を理解し問題を解くことができる能力や応用力を身につけ国家試験に対する力を獲得する。運動器系、脈管系、内臓系、神経系	3 前	30	1		○		○		○		
○			柔道整復学演習ⅠB	解剖学の国家試験対策授業。内容を理解し問題を解くことができる能力や応用力を身につけ国家試験に対する力を獲得する。神経系、感覚器、体表解剖	3 後	30	1		○		○		○		
○			柔道整復学各論ⅠA	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に骨折各論の知識を修得する。実際に臨床現場で骨折の施術にあたるための専門的知識を得る。整復法・固定法、鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨（近位端骨折、外科頸骨折、骨幹部骨折、顆上骨折、外顆骨折、内側上顆骨折）	2 前	30	1	○			○		○		

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			柔道整復学各論ⅠB	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に骨折各論の知識を修得する。実際に臨床現場で骨折の施術にあたるための専門的知識を得る。 前腕骨近位端部骨折、肘頭骨折、橈骨単独骨折、ガレアジ骨折、尺骨単独骨折、モンテギア骨折、橈尺両骨骨折、橈骨遠位端部骨折、手根骨骨折、指骨骨折	2 後	30	1	○			○		○		
○			柔道整復学演習Ⅱ	リハビリテーション医学、運動学、整形外科の国家試験対策授業。内容を理解し問題を解くことができる能力や応用力を身につけ国家試験に対する力を獲得する。 リハビリテーション医学、運動学、整形外科	3 後	30	1		○		○		○		
○			柔道整復学各論ⅡA	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に骨折各論の知識を修得する。実際に臨床現場で骨折の施術にあたるための専門的知識を得る。 頭蓋骨骨折、脊椎骨折、骨盤骨折、胸郭骨折、大腿骨骨折	2 前	30	1	○			○			○	
○			柔道整復学各論ⅡB	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に骨折各論の知識を修得する。実際に臨床現場で骨折の施術にあたるための専門的知識を得る。 膝蓋骨骨折、下腿骨骨折、足根骨骨折、中足骨骨折、足指骨骨折	2 後	30	1	○			○			○	
○			柔道整復学各論ⅢA	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に脱臼各論の知識を修得する。実際に臨床現場で脱臼の施術にあたるための専門的知識を得る。 肩関節脱臼、鎖骨脱臼、肘関節脱臼、顎関節脱臼、頸椎・胸椎脱臼	2 前	30	1	○			○		○		

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			柔道整復学各論ⅢB	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に脱臼各論の知識を修得する。実際に臨床現場で脱臼の施術にあたるための専門的知識を得る。 遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、月状骨・月状骨周囲脱臼、手根中手関節脱臼、中手指節関節脱臼、近位指節間関節脱臼、遠位指節間関節脱臼、股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、ショパール関節脱臼、リスフラン関節脱臼、足指の脱臼	2後	30	1	○			○	○			
○			柔道整復学各論ⅣA	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に軟部組織損傷各論の知識を修得する。実際に臨床現場で軟部組織損傷の施術にあたるための専門的知識を得る。 軟部組織損傷（頭部・顔面部、胸部、脊椎、上肢）	2前	30	1	○			○		○		
○			柔道整復学各論ⅣB	柔道整復師に必要な柔道整復理論の中で特に軟部組織損傷各論の知識を修得する。実際に臨床現場で軟部組織損傷の施術にあたるための専門的知識を得る。 軟部組織損傷（上肢、下肢）、超音波での観察	2後	30	1	○			○		○		
○			柔道整復学各論ⅤA	認定実技審査に対応できるための知識と技能等を獲得する。 認定実技対策（鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、橈骨遠位端部骨折、肩関節脱臼、肘関節脱臼）	3前	30	1	○			○		○		
○			柔道整復学各論ⅤB	認定実技審査に対応できるための知識と技能等を獲得する。 骨折復習、脱臼復習、総合復習、	3後	30	1	○			○		○		
○			柔道整復学各論ⅥA	認定実技審査に対応できるための知識と技能等を獲得する。 基本包帯法、冠名包帯法、腱板損傷、上腕二頭筋腱損傷、大腿部肉離れ、膝側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、膝半月板損傷、腓腹筋肉離れ、アキレス腱断裂、足関節外側靭帯損傷	3前	30	1	○			○		○		

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			柔道整復学各論ⅥB	認定実技審査に対応できるための知識と技能等を獲得する。 認定実技審査(説明、注意点、練習)	3後	30	1	○			○		○		
○			柔道整復学演習ⅢA	生理学の国家試験対策授業。内容を理解し問題を解くことができる能力や応用力を身につけ国家試験に対する力を獲得する。 循環、呼吸、消化、代謝、体温、泌尿器、生殖器、内分泌	3前	30	1		○		○		○		
○			柔道整復学演習ⅢB	生理学の国家試験対策授業。内容を理解し問題を解くことができる能力や応用力を身につけ国家試験に対する力を獲得する。 内分泌、骨、筋、神経、感覚、血液、体液	3後	30	1		○		○		○		
○			柔道整復実技ⅠA	柔道整復師に必要な包帯固定法の基本的知識と技能等を獲得する。 基本包帯法(手関節、前腕、肘、上腕、肩関節、足関節、下腿、膝関節、大腿部)	1前	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技ⅠB	柔道整復師に必要な包帯固定法の基本的知識と技能等を獲得する。 副子固定(上肢、下肢)、後療法(上肢、体幹、下肢)、冠名包帯法、さらし固定、頭部・顔面部の包帯、手指・足指の包帯法	1後	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技ⅡA	柔道整復師に必要な包帯固定法の基本的知識と技能等を獲得する。 基本包帯法(手関節、前腕、肘、上腕、肩関節、足関節、下腿、膝関節、大腿部)	1前	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技ⅡB	柔道整復師に必要な包帯固定法の基本的知識と技能等を獲得する。 副子固定(上肢、下肢)、後療法(上肢、体幹、下肢)、冠名包帯法、さらし固定、頭部・顔面部の包帯、手指・足指の包帯法	1後	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技ⅢA	柔道整復師が臨床で行う固定法や検査法の知識と技能等を獲得する。 手指の固定、上肢検査法、体幹検査法	2前	30	1			○	○			○	○
○			柔道整復実技ⅢB	柔道整復師が臨床で行う固定法や検査法の知識と技能等を獲得する。 下肢検査法、テーピング	2後	30	1			○	○			○	○

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			柔道整復実技 Ⅳ A	柔道整復師が臨床で遭遇する胸部、脊柱、股関節疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 胸部損傷、脊柱損傷、股関節損傷	3 前	30	1			○	○			○	○
○			柔道整復実技 Ⅳ B	柔道整復師が臨床で遭遇する骨盤、大腿部疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 骨盤骨折、大腿骨骨折、大腿部の軟部組織損傷	3 後	30	1			○	○			○	○
○			柔道整復実技 Ⅴ A	柔道整復師が臨床で遭遇する膝関節疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 膝関節の機能解剖、大腿骨遠位端部骨折、膝蓋骨骨折、膝関節の軟部組織損傷	3 前	30	1			○	○		○		
○			柔道整復実技 Ⅴ B	柔道整復師が臨床で遭遇する下腿および足関節疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 下腿骨骨折、下腿の軟部組織損傷、足関節の脱臼・骨折、足根骨骨折、足部骨折、足部の障害、骨端症	3 後	30	1			○	○		○		
○			臨床入門Ⅰ	3年次の臨床実習に向けて、病態把握の基礎を身につける。 身体計測（上肢長、下肢長、周径） 機能解剖・体表解剖・可動域測定（肩甲帯、肩関節、肘関節、手関節）頸椎ヘルニアの検査法	2 前	30	1			○	○		○		
○			臨床入門Ⅱ	3年次の臨床実習に向けて、病態把握の基礎を身につける。 機能解剖・体表解剖・可動域測定（股関節、膝関節、足関節、脊柱）、腰椎ヘルニアの検査法	2 後	30	1			○	○		○		
○			総合実技Ⅰ A	柔道整復師が臨床で遭遇する上腕骨遠位部、肘関節、前腕部疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 上腕骨遠位端骨折、肘関節軟部組織損傷、前腕骨骨折	3 前	30	1			○	○			○	○
○			総合実技Ⅰ B	柔道整復師が臨床で遭遇する手部疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 手根骨骨折、手関節部軟部組織損傷、手関節脱臼、中手骨骨折、指骨骨折	3 後	30	1			○	○			○	○

(医療専門課程 柔道整復科Ⅱ部) 平成29年度													
○			総合実技ⅡA	柔道整復師が臨床で遭遇する肩関節疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 肩の解剖と機能、肩関節の診察・検査法、肩関節周辺の外傷、肩関節変性疾患、末梢神経障害、臨床実施問題	3 前	30	1			○	○	○	○
○			総合実技ⅡB	柔道整復師が臨床で遭遇する顎関節、脊柱疾患について、鑑別および適応の可否を判断できる知識と技能等を獲得する。 顎関節脱臼・顎関節症、頸部の解剖と機能、頸部・背部の診察、主な頸椎疾患、臨床実施問題	3 後	30	1			○	○	○	○
○			臨床実習	実際の患者施術を行い、技術向上および柔道整復臨床の基礎を身につけ、免許取得後における実務対応ができる能力を獲得する。	3 前	45	1			○	○	○	
合計			81	科目	2460単位時間(88単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、全ての科目単位を取得すること。履修方法は全科目必修であり、学校の設定したクラス毎の時間割に従い履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。